



1月9日、鳥羽市消防出初め式を開催し、消防功労者の表彰などを行う式典のあと、鳥羽マリンターミナル歩道付近で平成28年の無災害を祈念した祝賀放水を行いました。消防署はしご車や消防団、鳥羽海上保安部および伊勢湾防災株式会社による陸上と海上からの一斉放水が始まると、見物に訪れた市民らから大きな歓声が上がっていました。

今年の安心・安全を祈念して祝賀放水



1月10日、公開シンポジウム「子どもたちが感じた東日本大震災とこれからの防災」が安楽島公民館で開催されました。

大震災から5年目となり、すでに災害意識の風化が見られることから、岩手県山田町の子ども3人を招き、被災した当時のことや復旧・復興する町に住んで感じることにについて話していただき、参加者や地元の子どもたちは今後の災害対策に活かせる身近な教訓を学びました。

子どもたちからの防災メッセージ



1月6日、鳥羽市エコツーリズム推進協議会は、近鉄鳥羽駅前で答志島和具産の生わかめを無料配布しました。

この生わかめは、鳥羽の一番の魅力でもある「食」を支えている漁業者が日々感じている「観光客へのおもてなし」の想いをかたちにするため、鳥羽磯部漁協和具浦支所から無料での配布を依頼されたもので、当協議会と漁協が連携して実施しました。

配布会場では、多くの観光客が足をとめ、笑顔で生わかめを受け取っていました。

『漁師からのおもてなし』を観光客へ



1月3日に鳥羽市青少年育成市民会議主催の「新春凧あげ大会」が開催されました。会場の鳥羽高校グラウンドには約200人ものかたがたが参加し、色とりどりの凧をあげてお正月の気分を味わいました。

市内の各地区の育成会や団体が作成した連凧や縦1.5m、横1mの大凧も大空に上がり、多くの歓声があがっていました。また、会場の一角では、お正月らしく伊勢海老汁やぜんざいの振る舞い、お楽しみ抽選会が行われ、子どもから大人まで楽しんでいました。

新春の大空に凧が舞う